

木造の部 優秀賞

連歌屋の家
所在地:太宰府市

撮影:イクマサトシ(Techni Staff)



建築主 個人
設計者 原田建築計画事務所 原田 達浩

施工者 相川工務店株式会社 代表取締役 相川 透
建築物の用途 専用住宅
構造・規模(階数) 木造・地上2階

設計趣旨

天満宮の参道そばに位置する木造伝統構法による住宅である。手刻み、小舞竹組、土壁といった伝統技術を採用し、平面の中央に配した8寸角の通柱を中心に、5つの床レベルで構成されている。木組による構造体を意匠として捉え、ダイナミックな木造空間の創出、伝統に捉われないデザインを心掛けた。インテリアは杉と漆喰と土で構成されている。準防火地域等の法的条件の中、歴史ある街で純粋な『木の家』を作るという行為にも、大きな意味があったと考えている。未完成な状態での完成を意識的に行い、家族全員で家をつくる行為は、竣工後も続いており、子ども達が新たにデザインを加えた空間は生々と変化し続けている。これも木の家の魅力であると、この家を訪れる度に子ども達に教えられる。

講評

新建材などを使わず主に杉、檜の無垢材を構造材に使用し、そのほか漆喰壁など自然素材を多用した木造2階建て住宅です。屋内のいくつかの高さに梁を渡して面格子や木質構造をあらわして使うことにより、自由に変化させることができる空間を確保しています。バリアフリーとは真逆なバリアフルな構成で、家中をアスレチックのように活発に過ごすことができます。元気な子ども達を中心とした豊かな生活の場を創り出し、生き生きとしたパワーを感じ進化し続ける“未完成な家”です。

触れて感じる、ほどよい硬さと温かさなど、木がもつ人との相性の良さを効果的に使った、子育てをテーマにしたモデル的な木造住宅です。

木質化の部 優秀賞

篠栗町立篠栗北中学校
所在地:糟屋郡篠栗町



建築主 篠栗町
設計者 株式会社アキヤマインダストリー
代表取締役 秋山 篤史

施工者 福岡県広域森林組合、篠栗町建設協力会
建築物の用途 中学校
構造・規模(階数) 鉄筋コンクリート造・地上3階

設計趣旨

既存のRC造校舎を活かしながら、木質化を通じて「教育環境の向上」を図るとともに、篠栗町の森林で育まれた原木を用いて製材した地域材を有効利用することで「持続的な森林づくり」「大工技術の継承」も包括的に考慮した篠栗町独自の学校木質化を提案した。

そのため、実際に同町の森林で伐採する時点からかわり、林業・製材・大工の三者と教育行政関係者が互いの事情を配慮した。生徒の激しい動きに対する「耐久性」、伐採予定林の林齢や材質・製材方法を見定めた「生産性」、木材の特性を活かして将来のメンテナンスを考慮した「施工性」を検討し、安易に標準仕様書に頼らない独自の木質化特記書を定めた。

講評

築30年足らずのRC校舎の教室床、壁材に地域産松、杉を使用した木質化建築物です。教室内の木質化は健康や精神的効果が期待され、温かみある「教育環境の改善」につながります。今回はさらに「持続的な森林づくり」や「木を活かす技術の継承」も考慮に入れた、町独自の包括的な学校改修を実現しています。地域材から有効に製材、施工するとともに、木材の流通で価格を大きく左右する節等級にこだわらない歩留まり重視の製材品利用を実現したことは、環境教育面でも注目に値します。まさに、地域の教育、森林林業、製材加工、建築設計施工関係者や町民が協力した、未来志向の先進的な取り組みです。

